

グルジア政治・経済 主な出来事

【2014年7月7日～2014年7月13日】

[当地報道をもとに作成]

平成26年7月17日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼ダラフヴェリゼ国内避難民・難民大臣が「アブハジア共和国」の代表者と協議(7日—9日)

・アブハジア内に残るアブハジア戦争時のグルジア人兵士らの遺体の移送に関して、ダラフヴェリゼ大臣がイスタンブールで「アブハジア共和国」の代表者と協議。アブハジア戦争で死亡した約2千名のうち、これまで165名の遺体がグルジア側に引き渡されている。2010年以降、国際赤十字がグルジア政府とアブハジア側の協議を仲介している。

▼「アブハジア商工会議所」とベトナム商工会議所が協力文書に署名(7日)

・アブハジア側の報道によれば、「アブハジア商工会議所」とベトナム商工会議所が協力に係る合意文書に署名。

▼アブハジアを通る鉄道の再開に関するアルメニア人協会の声明(7日)

・アブハジアのアルメニア人協会が、アブハジアを通る鉄道の再開に関する幅広い議論を呼びかける声明を発表。コシヤン「アブハジア共和国議会副議長」らが署名した声明は、鉄道の再開によりアブハジアに大きな利益がもたらされ、アブハジアが「主権国家」として関税同盟に加盟する可能性が高まるとしている。ミクヴァビア「アブハジア共和国議会議員」は、鉄道の再開に反対する者はいないが、「大統領選挙」前のこのような声明は、アブハズ人住民とアルメニア人住民の対立を煽ると批判。他の議員は議論の前にアルメニアが「アブハジア共和国」を承認することが必要だとコメント。

2. 外 政

▼ウスパシヴィリ国会議長がアゼルバイジャンを訪問(6日—8日)

・与党連合の議員らとともにバクーを訪れたウスパシヴィリ国会議長は、アゼルバイジャンのアリエフ大統領、アサドフ国会議長、ラシザデ首相、ママディヤロフ外相と会談。両国の「非常に良好な関係」を確認し、さまざまな共同プロジェクトについて議論した。

・「ウ」国会議長は、記者に対し、グルジア・EUの連合協定への署名はグルジアの法律に一定の変化をもたらすが、「アゼルバイジャンとの関係に影響を及ぼすことはない」と述べた。あらゆる重要な問題について両国の立場は一致していると強調。

▼駐英大使の任命(7日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領は、駐英グルジア大使にレヴァズ・ガチェラゼ氏を任命。「ガ」氏は1998年から2004年まで駐イスラエル大使、その後2009年まで駐アルメニア大使を務めた。駐英大使はこれまで1年半の間空席になっていた。

▼チカイゼ内相が訪独(8日)

・独内相らと会談。両国政府間の「組織犯罪、テロその他の重大犯罪との闘いにおける協力」に関する合意に署名。

▼リトアニア国会がグルジア、モルドバ、ウクライナとの連合協定を批准(8日)

▼仏戦艦がバトゥミ港へ入港(8日)

・8日、仏・グルジア国防協力の一環として、仏のステルス型軽フリゲート戦艦「Surcouf」が、バトゥミ港に入港。12日まで停泊した。4月後半には仏の情報収集艦「Dupuy de Lôme」もバトゥミ港に来港している。

▼アバトウライNATOコーカサス・中央アジア担当事務局長特別代表のグルジア訪問(9日)

・「ア」特別代表は、9月のウェールズでのNATO首脳会議で(メンバーシップ・アクションプラン(MAP)の代わりに)グルジアに提示される「実質的なパッケージ」について協議するためグルジアを訪問。

・パンジキゼ外相との会談後、「ア」特別代表は、「首脳会議では、グルジアにおけるNATOのプレゼンスおよびNATOの議論・活動におけるグルジアのプレゼンスの拡大に繋がる決定がなされることを確信している」と述べた。「パ」外相は、「パッケージは、グルジアの国防能力の増強、戦略的対話へのグルジアの関与、NATOへのグルジアのより高いレベルでの参加など、具体的かつ重要な内容を含む」とコメント。

・アラサニア国防相は、「パッケージはグルジアをより安全にする多くの項目から成る。NATO加盟に向けた一つのステップになるだろう」と述べた。

・ペトリアシヴィリ欧州・欧州大西洋統合担当国務大臣は、TV番組で、「パッケージによってグルジアとNATOの協力のレベルは引き上げられるものの、グルジアはNATOの提案に満足していない」と話した。

▼アバシゼ対露関係首相特別代表とカラーシン露外務次官との会談(9日)

・2012年12月以来9回目となる会談がプラハで行なわれた。両者は、7日にプラハで、グルジア・露間の貿易に対するグルジア・EUのDCFTAの影響を検討する両国の経済省および外務省の代表者間の技術的な会合が開かれたことを歓迎。会談後、「カ」露外務次官は記者に対し、

DCFTA がグルジア・露間の貿易に何らかの影響を与えることは間違いないが、「否定的なサプライズ」を防ぐべく、問題を詳細に検討することが必要だと述べた。

・2014年9月15日以降にトビリシ＝モスクワ間の定期航空便を再開する可能性についても議論された。

・ダリアリ峡谷での地滑りの対応に関し、ロシア緊急事態省とグルジア内務省緊急事態局の協力を高く評価。

・次回の会談は10月に予定されている。

3. 内 政

▼シェワルナゼ元大統領が死去(7日)

・享年 86。1972 年から 1985 年までグルジア共産党中央委員会第一書記、1985 年から 1990 年までソ連外相、1995 年から 2003 年までグルジア大統領を務めた。「バラ革命」で失脚。

・プーチン露大統領、ゴルバチョフ元ソ連大統領、ケリー米務長官、バイカー元米務長官、ライス元米務長官、シュタインマイヤー独外相、ゲンシャール元西独外相、安倍総理ら内外要人から追悼のメッセージが寄せられた。

・13 日にサメバ大聖堂にて葬儀が営まれた。バイカー元米務長官、ゲンシャール元独外相、シュミート・スイス元大統領、オトゥンバエヴァ・キルギス元大統領、アルメニアおよびアゼルバイジャンの国会議長らが参列。日本からは安倍総理の特使として逢沢衆議院議員が出席した。葬儀の後、遺体は「シェ」元大統領が暮らしていた邸宅の庭に埋葬された。

▼控訴裁判所がウグラヴァ元トビリシ市長の控訴を棄却(8日)

・4 日にトビリシ市裁判所が汚職容疑での起訴に係る「ウ」元トビリシ市長の審理前勾留を認めたことについて、「ウ」元トビリシ市長側が控訴していたが、8 日、控訴裁判所は控訴を棄却。

▼NGOが聖職者の選挙への干渉を告発(8日)

・7月8日のサメバ大聖堂での説教で、ヤコブ主教が野党「統一国民運動」(UNM)を批判し、有権者らに決選投票で UNM の候補者に投票しないよう呼びかけたことについて、「公正な選挙と民主主義のための国際社会」、グルジア青年法律家協会、Transparency International Georgia など4つのNGOが中央選挙委員会に適切な対応をとるよう求める共同声明を発表。選挙法は宗教団体による選挙運動を禁じている。9日、中央選挙委員会は事実の調査を開始したと発表。

▼統一地方選挙の決選投票(12日)

・6月15日に行なわれた統一地方選挙の決選投票がトビリシ市を含む8都市と13地区で実施された。投票率は36%(トビリシ市34.3%)

・全ての都市・地区で与党連合「グルジアの夢」の候補者が勝利。トビリシ市長選の暫定結果(開票率100%)に

よれば、与党連合の候補ナルマニア元地方発展インフラ大臣72.47%、野党「統一国民運動」のメリア候補27.53%。

・マルグヴェラシヴィリ大統領は、今回の統一地方選挙は、「政治文化と地方自治の真の発展の始まりを記念する歴史的瞬間であった」とコメント。

・選挙を監視した米国、英国、オランダの大使館は、決選投票での違反が「比較的僅か」であったとして評価しつつ、「ウグラヴァ前トビリシ市長の審理前勾留は『選挙期間の緊張を高めた』」との共同声明を発表。

4. 経 済

▼2014年6月の入国者数(7日)

・内務省が発表。2014年6月の入国者数は422,529人で前年同月比7.7%減。入国元別ではトルコ33.4%(9%減)、アゼルバイジャン23.2%(15.3%増)、アルメニア19.9%(19.3%減)、ロシア14.4%(20%減)、EU諸国6%(12.8%増)、ウクライナ3.1%(10%増)。

・2014年1月～6月の入国者数は2,243,362人(前年同期比2%増)。うち38.5%が旅行者。

▼トビリシ＝メスティア間の定期航空便(8日)

・「Service Air」社が3年間の運行契約を320万ドルで落札。7月15日からL-410旅客機(定員15名)によるトビリシ＝メスティア間の定期航空便の運航を開始する。

▼ラリのシンボルマークが決定(8日)

・グルジア国立銀行が公募を通じて決定。カダギゼ国立銀行総裁は、「将来、欧州圏の一員となり、独立の通貨政策が必要なくなる日がやってくるまで、我々はラリの普及に努めねばならない」と述べた。

▼世界銀行とスイス開発協力局による5百万ドルの支援(8日)

・地域開発および地方のインフラ整備のための5百万ドルの補助金の拠出に関する合意に、世界銀行とスイス開発協力局が署名。

▼アナクリア港の建設プロジェクトへの参加の受付を開始(10日)

・10日、経済・持続的発展省の主催により、アナクリア港建設プロジェクトに関するプレゼンテーションが行なわれ、10月1日までにプロジェクトへの参加企業の応募を受け付けることが発表された。

・ガリバシヴィリ首相は、「アナクリア港がグルジアを代表する施設の一つになり、歴史的なプロジェクトになると確信している」と挨拶。

・クヴィリカシヴィリ経済・持続的発展大臣は、「アナクリア港は海へのグルジアの主要な門戸となり、また、南コーカサス地域の主要な物流センターの一つになる」として、グルジアの過去数十年の歴史のなかで、「アナクリア港の建設は、国の経済発展の観点から見て、最も重要なプロジェクトの一つになる」と述べた。